

気仙沼市一般廃棄物最終処分場の施設見学会

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 事務連絡

(1) 本日の行程について (裏面参照)

(2) 事前配布資料について

4 移 動 8時30分出発

5 気仙沼市施設見学 10時40分～12時

6 移 動 12時出発～15時30分到着予定

(昼食：南三陸町さんさん商店街)

<行程表>

時 刻	内 容	備 考
8：20	挨拶、事前説明	市役所1階 市民ホール
8：30	市役所出発	途中休憩（道の駅三滝堂）※10分程度
10：40	到着	気仙沼市一般廃棄物最終処分場
	見学開始	
	映像視聴 クローズド型施設説明	被覆施設、浸出水処理施設
11：30	バス移動	
11：40	オープン型施設説明	大曲一般廃棄物最終処分場
11：55	見学終了	
12：00	気仙沼市出発	
12：50	昼食（1時間程度）	南三陸さんさん商店街
13：50	南三陸町出発	
15：30	市役所到着予定	

一般廃棄物最終処分場の 施設見学会 事前資料

最終処分場の機能と役割について

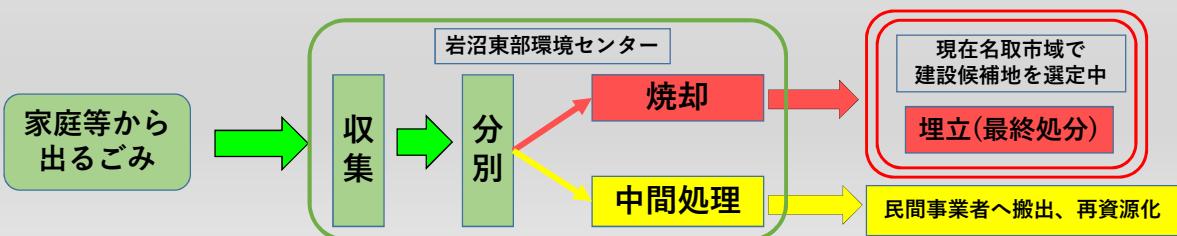


最終処分場とは？

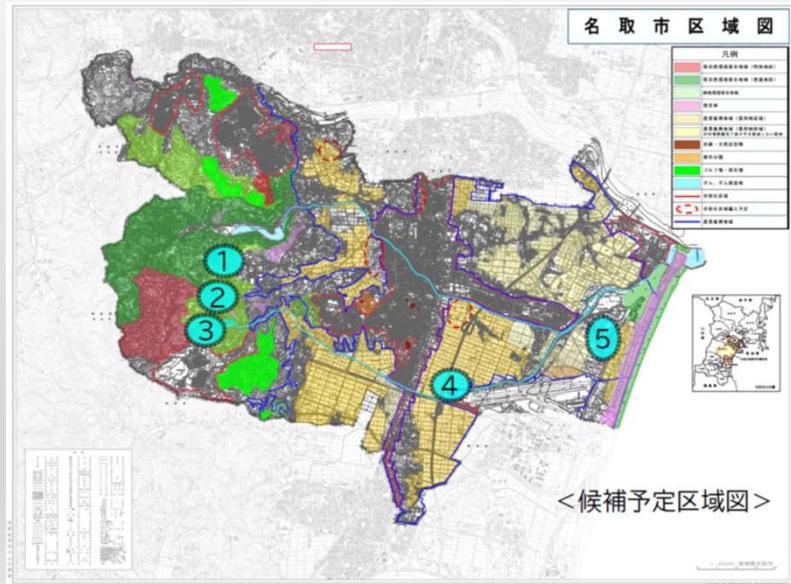
A. 燃やしたごみの焼却灰やリサイクル困難な廃棄物を安全に埋立てるための施設

なぜ最終処分場が必要なのか？

A. 生活から出たごみは可能な限り資源化されますが、現在の技術では全て再資源化することは不可能であり、埋立処分をせざるを得ないごみ（焼却灰など）が出てきます。それらを埋め立てる施設として最終処分場が必要となります。



最終処分場候補地選定について①



- No 1 愛島塩字滝沢地内
- No 2 愛島笠島字鈴ヶ森地内
- No 3 愛島笠島字鷹鳥屋山地内
- No 4 植松字稔田地内
- No 5 下増田字北原東地内

現在、亘理名取共立衛生処理組合が、候補予定区域に係る詳細調査業務を、専門コンサルタントへ委託

最終処分場候補地選定について②



<市から組合への要望内容>

1 クローズド方式

最終処分場の整備工法は、地域の生活環境への影響が少なく、住民同意を得やすいクローズド方式とすること。

2 浸出水の無放流または下水道放流

浸出水の処理は、周辺の環境保全への影響を最小限に留めるよう、無放流または下水道処理とすること。

最終処分場の種類について（クローズド型）



●形状

地表を屋根と壁で覆った屋内型



参考：気仙沼市一般廃棄物最終処分場
パンフレット

●散水の方法

スプリンクラーによる

●周囲環境への影響

覆土及び建物を設置することで対応

●浸出水の処理方法

排水（公共下水道などへ放流）または循環再利用（外部に出さない）

●建設工事費

オープン型より高価（※屋根・壁等の建設費用分の加算）

最終処分場の種類について（オープン型）



●形状

屋根で覆われていない屋外型（主に傾斜地に建設されることが多い）



参考：石巻市大衡山一般廃棄物最終処分場パンフレット

●散水の方法

雨水・降雪による

●周囲環境への影響

即日覆土で対応

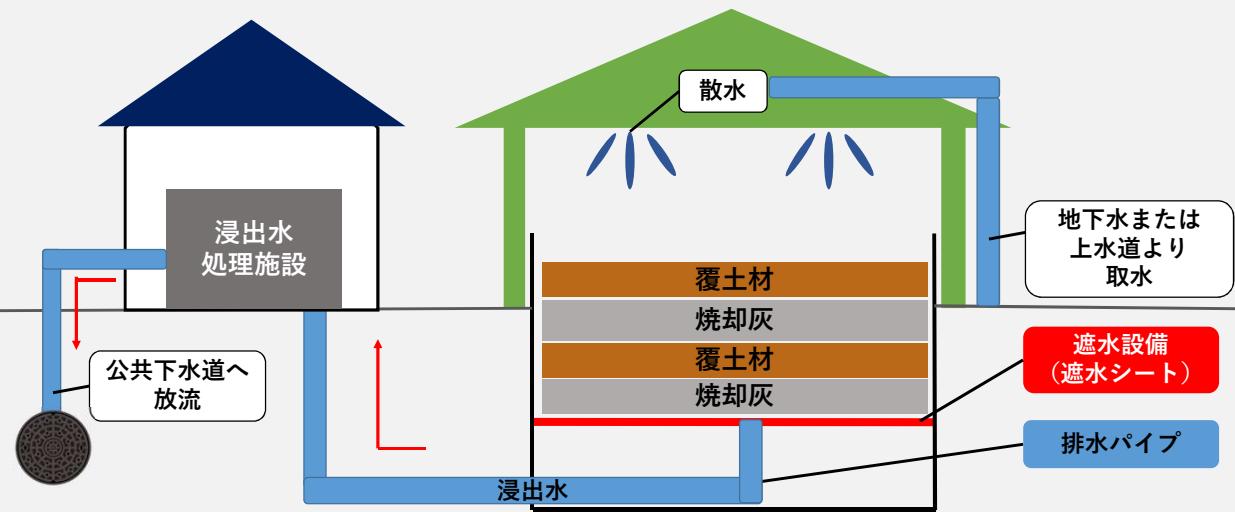
●浸出液の処理方法

排水（公共下水道などへ放流）

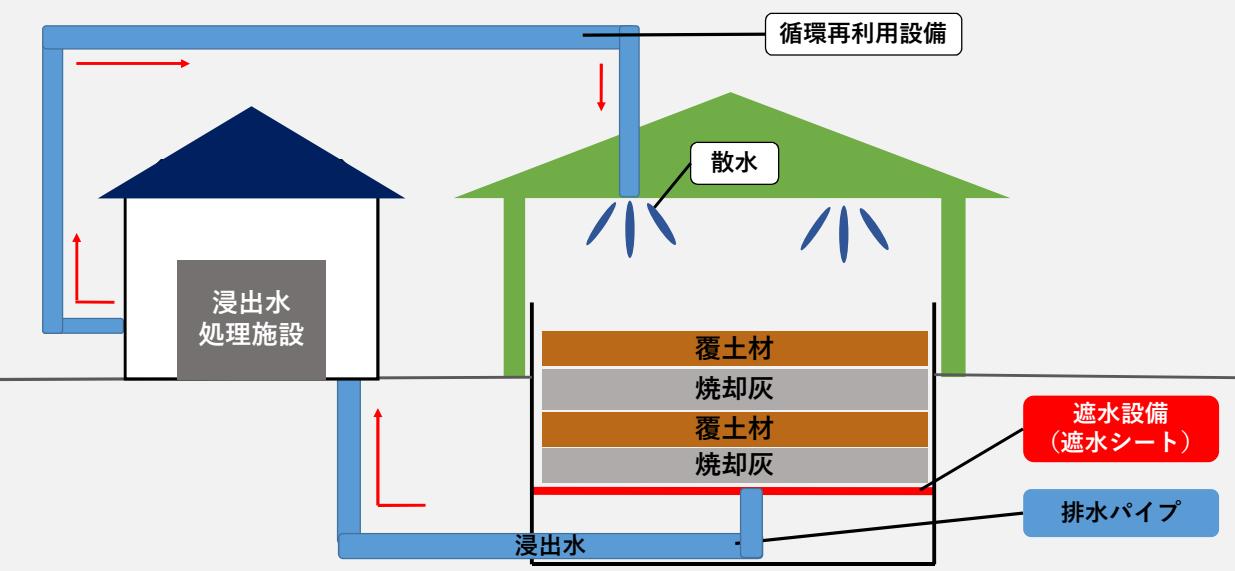
●建設工事費

クローズド型に比べて安価

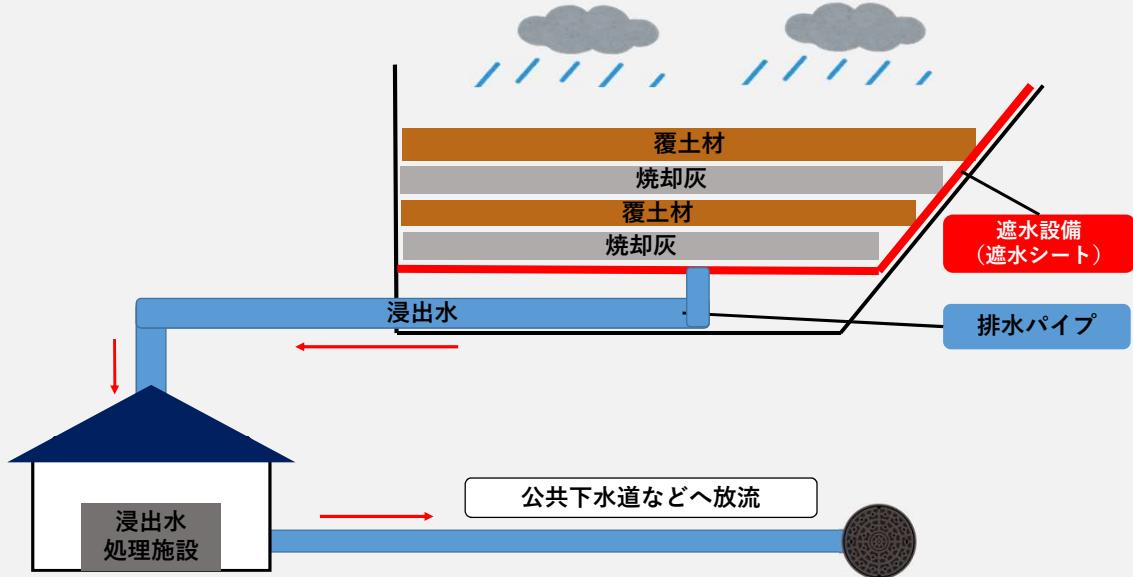
クローズド型について① (公共下水道放流 イメージ) **名取市** City of Natori



クローズド型について② (循環再利用 イメージ) **名取市** City of Natori



オープン型について（図式）



最終処分場の設備について①



1. 施設内からの騒音や臭いはどうなの？

A. クローズド型は、被覆設備（屋根・壁）を設けますので、ショベルカー等の重機の作業音が外部に漏れる音は軽減されます。臭いですが、主な埋立物は焼却灰なので、灰自体の臭いがしますが、被覆設備（屋根・壁）により、施設内の臭いを極力少なくする対策を講じます。

2. 埋め立てた灰は飛び散らないの？

A. 焼却施設の段階で、灰を水で冷却し加湿することや薬品での固形化により飛散防止対策に努めており、更に施設内での作業で飛散することの無いように土で覆います。また、クローズド型の場合は、加えて屋根・壁により飛散を防止します。

最終処分場の設備について②



3. なぜ散水するの？

- A. 埋め立てた廃棄物を浄化させるためです。
散水後埋立地から出た水（＝浸出水）は、施設の底に敷いた遮水シートを伝って排水パイプを通り、水を浄化する設備（＝浸出水処理施設）で処理されます。

4. 灰の成分は地中に漏れないの？

- A. 埋立地の底には遮水シートを張り、浸出水が地下に漏れ出ることを防ぎます。
処分場建設時にその土地の土質を調べ、その性質に応じて『遮水シートを二重に張る』・『保護マットを挟む』など、様々な強化対策を選択することが可能です。また、万一に備え、遮水シートの破損を検知する『漏水検知センサー』を敷設します。

最終処分場の設備について③



5. 処理された浸出水は最終的にどうするの？

- A. 浸出水は、安全な水質になるまで浄化され、公共下水道などに排水します。
なお、クローズド型の場合、建物内のスプリンクラーで散水するので、散水用の水として循環利用することで、施設外へ排水することなく処理をする方法も可能です。

6. 最終処分場にはどれくらいの焼却灰が運ばれるの？

- A. 試算として1日あたり大型トラック3台程度と見込んでいます。
処分場の規模は、約10万立方メートル。約15年かけて埋め立てる予定です。

7. 埋立終了した場合はどうするの？

- A. クローズド型の場合、更にコンクリート等で地表に蓋をすることで、建物を有効活用した跡地利用も可能です。